

研究課題名	フレイルが高齢者肝細胞癌肝切除後長期成績に及ぼす影響
研究の意義・目的	私たちはこれまでに高齢者肝切除に対しフレイル*が術後合併症や自立生活が困難になるリスクを上がることを報告していましたが、肝臓がんに対して肝切除をうけられた患者さんの長期成績にフレイルがどのような影響を及ぼすかは明らかではなく、今回それを解明するのが目的です。 * ストレスや手術などの侵襲が加わることにより介護が必要になる状態を指しています。
研究を行う期間	「機関の長の実施の許可日」～ 2023年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2016年5月～2018年12月に大阪市立大学医学部附属病院の肝胆膵外科で、肝臓がんの初めての治療として肝切除を受けられた65歳以上の方のなかで、手術の前に「肝切除がフレイルに及ぼす影響に関する多施設共同研究」にご同意いただいた方が対象になります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、飲酒歴、併存疾患、既往疾患、腹水の有無、Child-Pugh分類、肝障害度、組織学的肝硬変の有無、入院日、手術日、退院日、術式、手術時間、出血量、腫瘍の肉眼的所見（腫瘍径、個数、腫瘍部位、門脈侵襲の有無・程度、静脈侵襲の有無・程度、動脈侵襲の有無・程度、胆管侵襲の有無・程度、進行度（肝癌取り扱い規約、UICC病期分類*）、病理所見（分化度、漿膜浸潤、門脈浸潤、静脈浸潤、動脈浸潤、胆管浸潤、組織学的進行度（肝癌取り扱い規約、UICC病期分類）、術後合併症（創感染、腹腔内感染、胆汁漏、腹水、胸水、呼吸器合併症、出血、肝不全、せん妄、心血管系合併症、脳血管系合併症、その他）の有無・重症度、在院死の有無（ありの場合死因）、退院後経過（転院の有無）、30日以内再入院の有無、介護申請の有無、癌再発の有無（ありの場合、再発診断日、再発部位、再発に対する治療）、生存の有無（死亡の場合、死因）、最終生存確認日、 手術直前の血液検査：血清総ビリルビン、アルブミン、プロトロンビン活性、ICG15分値、血小板数、AST、ALT * 国際的な癌進行度（Stage）分類 過去にご協力いただいた研究（「肝切除がフレイルに及ぼす影響に関する多施設共同研究」承認番号3412）でご提供いただいた下記項目を本研究に使用させてください。 アンケート結果：基本チェックリスト25個の質問の回答
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院肝胆膵外科のみで行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院肝胆膵外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 研究責任者：田中 肖吾
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を

したくない 場合	断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 (担当者氏名) 田中 肖吾 電話番号：(06) 6645-3841 メールアドレス：tanaka.shogo@med.osaka-cu.ac.jp